

Injury Alert (傷害速報) 類似事例

アリーナの座席による手指不全切断 (No.26 ベビーカーによる手指切断の類似事例4)

事 例		年齢：2 歳 6 か月 性別：女児 体重：11.3kg 身長：85.5cm
傷害の種類		指の不全切断
原因対象物		観客席の椅子
臨床診断名		左環指指尖部不全切断
医 療 費		196,720 円
発 生 状 況	発生場所	アリーナ（スポーツや音楽のイベントに利用される、階段状の観客席に囲まれた多目的施設）の観客席
	周囲の人・状況	大人数が参加する音楽イベントの会場であり、非常に混雑していた。
	発 生 年 月 日・時刻	2018 年 5 月 X 日（祝日）午後 3 時 00 分頃
	発生時の詳しい様子 と経緯	アリーナにおいて音楽イベントを両親と共に観覧していた。小児も入場可能なイベントで、小児の入場が許可されたエリアで観覧していた。椅子は、立ち上がると座面が背もたれ側にたたみ込まれる仕組みとなっていた（図 1）。近くの席の人が移動した際に両親は立ち上がって移動できるスペースを作ったが、兄はおとなしくしていたため、そのまま椅子に座らせていた。兄が母の座席に手を伸ばしていることに気づかず、兄の左側にいた母が椅子に座ったところ、椅子の座面と肘掛の間に指を挟んで受傷した（図 2、3）。
治療経過と予後		左環指不全切断（石川分類 subzone II ）であり、血流が不安定な様子がみられた。爪甲は脱臼しており、爪床が露出していた。爪母も一部損傷がみられた。指腹には指尖から遠位指節間(DIP)関節直上まで縦走する裂創を認めたが、明らかな骨や腱の露出はなく、明らかな血管や神経の断裂も確認できなかった（図 4）。DIP 関節の動きに問題はなかった。指の X 線写真では、縦方向の末節骨骨折が確認された。静脈鎮静薬を用いて鎮静し、局所麻酔薬を用いて指ブロックを行い、縫合処置を行った。開放骨折であったため、抗菌薬を投与した。経過観察を目的に準集中治療室（HCU）に入院となったが、縫合部の感染兆候はなく、血流も安定していることが確認され、入院翌日に退院となった。その後は形成外科および整形外科の外来にて創部の経過を観察することとなった。



図 1 座面がたたみ込まれた状態



図 2 指が挟まれた部位



図 3 指が挟まれた部位 (指し示された場所)



図 4 実際の創部

Injury Alert (傷害速報) 類似事例

折りたたみ式玩具による手指外傷 (No.26 ベビーカーによる手指切断の類似事例 5)

事例	基本情報	年齢：2 歳 3 か月 性別：男児 体重：10.6kg 身長：84cm
	家族構成	父 母 姉(5 歳) 本児
	発達・既往歴	口唇口蓋裂
臨床診断名		左示指の末節部圧挫創、爪床挫創
医 療 費		外来 26,890 円
原因 対象	対象名称	家庭用 折り畳み式ジャングルジム
	入手経路 使用状況	2015 年に両親が購入。姉が使用していた。
発 生 状 況	発生場所	自宅の部屋
	周囲の人 周囲の環境	同室に母親はいた。その他の家族は自宅にいなかった。
	発生年月日	2020 年 11 月 X 日 (火) 午前 11 時 30 分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	午前 11 時 30 分ごろ母と本児が同室で遊んでいた。母親が 2・3 分間ほど他のおもちゃを整理していた間に、本児が折り畳みである状態のジャングルジムを見つけて取り出そうとしていた。本児が啼泣したので、母が見ると、ジャングルジムの接合部分 (図 1) に左手が挟まっており、取れなくなっている状態だった。母が本児の手をゆっくり抜いて確認すると出血しており、創部を圧迫して救急要請した。午後 0 時 10 分ごろに医療機関に到着した。
医療機関受診時 以降の治療経過 転帰		左示指以外に外傷はなく、バイタルサイン・全身状態は安定していた。左示指末節部背側より出血が継続していた。X 線検査で骨折がないことを確認した後に、アドレナリン添加なしリドカインを用いて指神経ブロックによる局所麻酔を施行し、出血部位の確認のため爪を 3/4 程度切除去して 1cm 弱の指先部挫創を確認した (図 2)。生理食塩水 200ml で洗浄後、5-0 合成吸収糸で 4 針縫合、皮膚は 5-0 ナイロン糸で 3 針縫合した (図 3)。受傷後 10 日に抜糸し、感染徴候なく、腱損傷など疑う所見はなかった。受傷後 16 日の形成外科受診時に、縫合糸の残存と排膿を認めたため、創部感染として抗菌薬の内服を開始した。受傷後 23 日の受診の際には創部感染は改善しており、終診となった。左示指の機能障害は認めなかった。

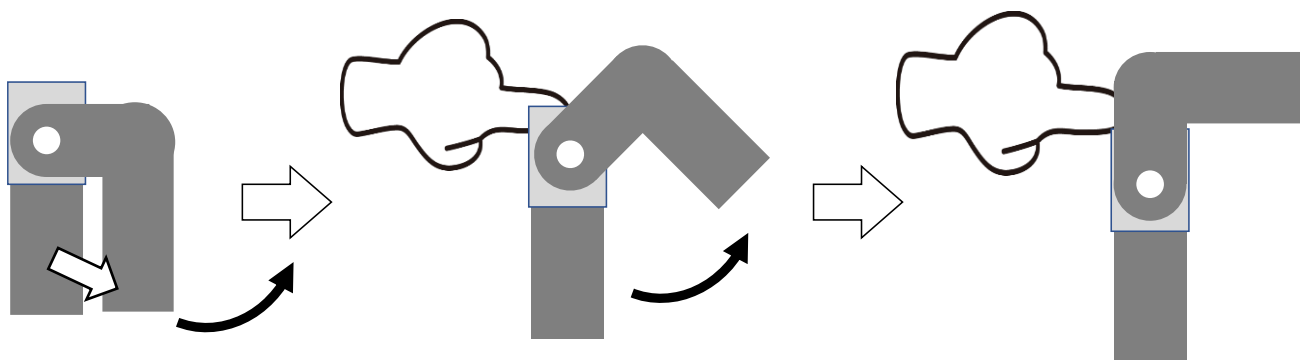


図 1. 折り畳み式ジャングルジムの接合部と挟まれた左示指
母の発見時は、一番右の図の様に指が挟まった状態であった。

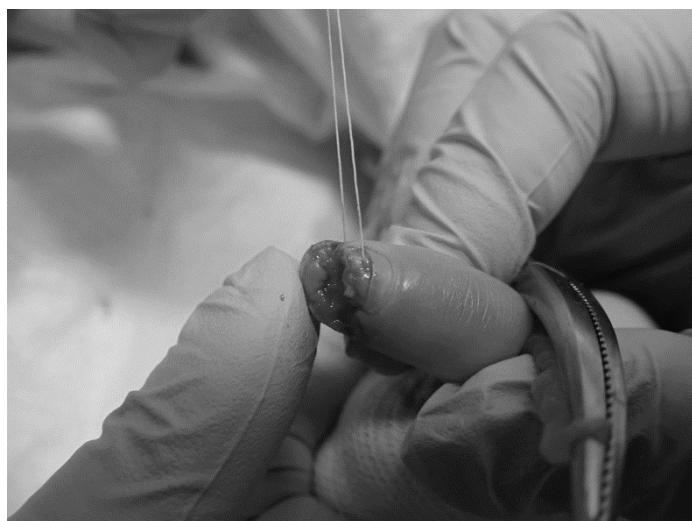


図 2 左示指の挫創

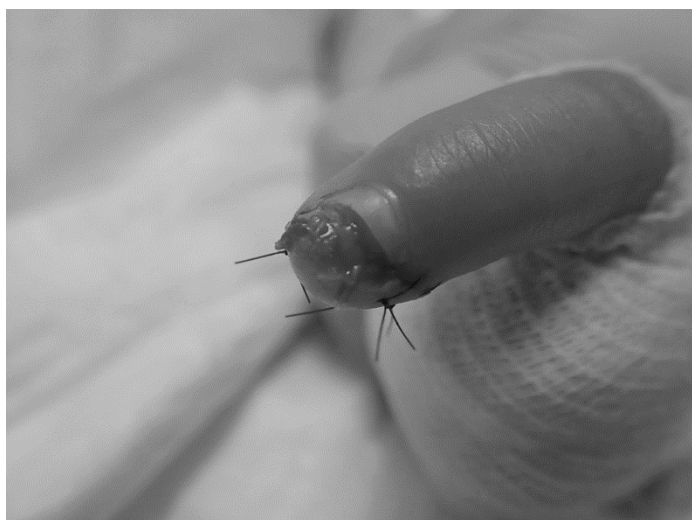


図 3 縫合処置後の左示指

Injury Alert (傷害速報) 類似事例

折りたたみ式玩具による手指外傷 (No.26 ベビーカーによる手指切断の類似例 6)

事例	基本情報	年齢 4 歳 7 か月 性別 女児 体重 17kg 身長 102cm
	家族構成	父 母 弟(1 歳) 本児
	発達・既往歴	なし
臨床診断名		左示指の末節骨開放骨折、末節部圧挫創、爪床挫創
医 療 費		外来 50,060 円
原因 対 象	対象名称	家庭用 折り畳み式スロープ・ジャングルジム
	入手経路 使用状況	3 年前に祖父母が購入
発 生 状 況	発生場所	自宅の部屋
	周囲の人 周囲の環境	母は部屋の見える台所におり、本児と弟が同室にいた。
	発生年月日	2020 年 11 月 X 日 (月) 午後 8 時 00 分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	母は台所で夕食の片付けをしており、本児と弟がジャングルジムで遊んでいた。最初はジャングルジム付属の滑り台は折りたたまれていなかった(図 1)。本児の啼泣で母が気づき見に行くと、滑り台の下に本児がおり、左手は滑り台の折り畳まれた接合部に挟まれた状態であった(図 2)。母が本児の左手をゆっくり抜いてみると、左示指から出血していた。患部を冷却し圧迫止血して、受傷 30 分後に自家用車で医療機関を受診した。スロープが完全に折り畳まれた図を示す(図 3)。

医療機関受診時以降の治療経過 転帰	左示指以外に外傷はなく、バイタルサイン・全身状態は安定していた。左示指末節部背側より出血しており、X 線検査では明らかな骨折がないと判断した。アドレナリン添加されていないリドカインを用いて指神経ブロックによる局所麻酔を施行し、出血部位の確認のため爪を除去、7-8m の左示指先端の挫創を確認した。生理食塩水 200ml を用いて洗浄し、爪床部を 5-0 合成吸収糸で 2 針縫合し、指と爪床部を 1 針縫合した。アルギネート創傷被覆剤で被覆、圧迫した状態で帰宅とした。翌日の再受診時には、止血されていたが、整形外科医により受診時の X 線検査で骨折の可能性を指摘され、開放骨折に準じて内服抗菌薬治療が開始された。受傷後 10 日の受診時には、感染徴候なく、抗菌薬治療は終了して、抜糸した。左示指の機能障害は認めなかった。
----------------------	---

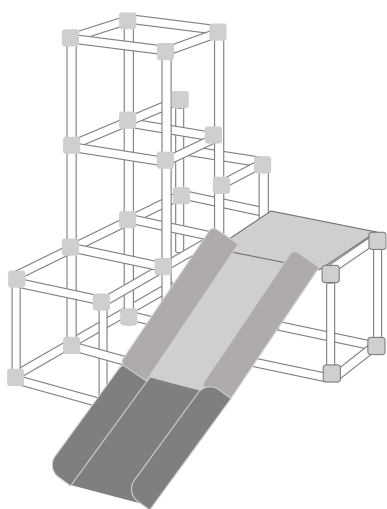


図 1 ジャングルジム付きスロープ

最初に遊んでいた状態：スロープが全て伸ばされていた

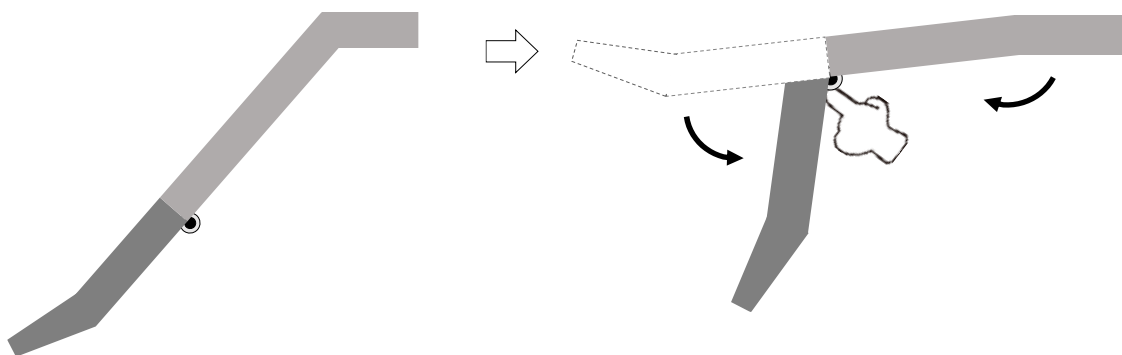


図 2 スロープの状態（側面図）

左図：最初に遊んでいた状態ではスロープが完全に伸ばされていた。

右図：折り畳み部で約 90 度折れ曲がりの状態で先端部は床についており、本児の左示指が挟まれていた

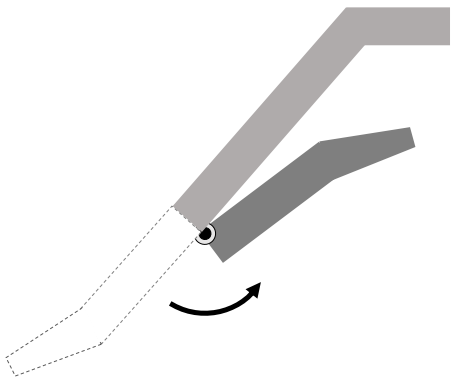


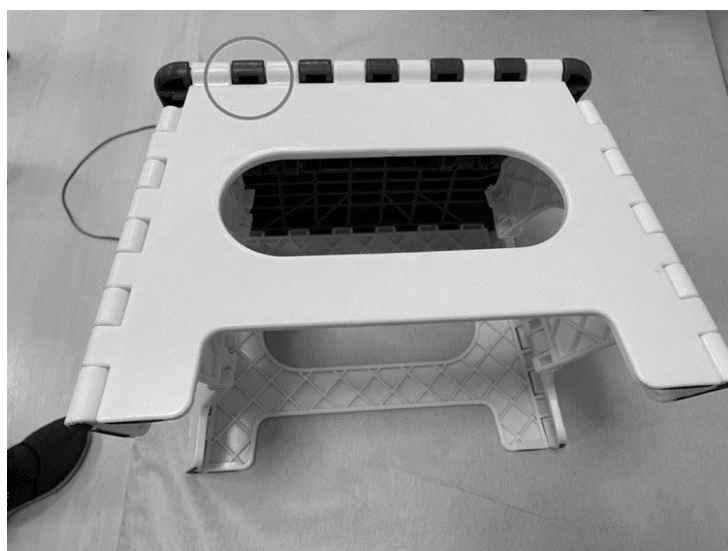
図3 参考：スロープの先端部分が完全に折り畳まれた状態

Injury Alert (傷害速報) 類似事例

折りたたみ式踏み台による手指切断 (No.26 ベビーカーによる手指切断の類似事例 7)

事例	基本情報	年齢：1 歳 3 か月 性別：男児 体重：11.0kg 身長：77.0cm
	家族構成	両親、兄 (3 歳)、本児
	発達・既往歴	なし
臨床診断名		右中指末節骨開放骨折、右中指末端部切断
医療費		入院 0 円 外来 36,380 円
原因対象	対象名称	折りたたみ式踏み台 (図 1)
	入手経路 使用状況	使用していた踏み台は 2018 年 11 月にネット通販で購入されたもの。当初は兄のために購入され兄が使用していたが、最近では本児が自分で踏み台を運んで、折り畳んだり広げたりの操作をしていた。
発生状況	発生場所	リビング内 (キッチンの向かい側)
	周囲の人 周囲の環境	直前まで母はキッチンにおり、本児はリビングで遊んでいた。父と兄もリビングにいたが本児から目を離していた。
	発生年月日	2021 年 2 月 X 日 (木) 午後 8 時 10 分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	上記時刻、母がキッチンからリビングへ移動した際に、本児が激しく啼泣した。母が様子を見ると、本児は座って啼泣している状態であった。右中指から出血しており、中指末端部が切断された状態であった。本児の傍には畳まれた状態の折りたたみ式踏み台があり、指の切断片が踏み台の折り畳まれる隙間 (図 1 の丸印部分) に挟まっていた。母が切断片を創部にあてながらティッシュで圧迫を試みつつ救急要請し医療機関へ搬送された。 状況から鑑みて、本児が踏み台を組み立てようとしていた最中、キッチンから離れた母に気をとられた際に台が折りたたまれ、隙間に指先を挟んだと推測された。その他の外力が加わったとは考えにくい状況であった。

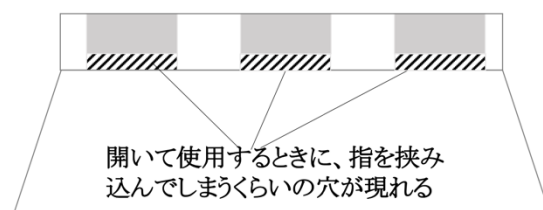
医療機関受診時 以降の治療経過 転帰	受診時、バイタルサインは安定しており、創部から活動性の出血は認めなかった。右中指末端部は完全に離断しており、末節骨の先端が露出していた。爪の脱臼はなく、爪母は保たれていた（図2）。単純X線写真では、右中指末節骨の裂離骨折を認めたが、骨片は認めなかった。初療を担当した救急医から整形外科、形成外科に相談の上で切断片の生着は極めて困難との判断を共有した。指ブロック麻酔下に生理食塩水で洗浄し、アルギン酸ナトリウムで保護した後に、ガーゼで被覆して処置を終了した。同日から抗菌薬の内服を開始した。その後、形成外科での外来管理となり、受傷後18日の時点で、辺縁から肉芽組織の形成が見られ、中心部は陥凹した状態であった。感染兆候はなく経過していた。（図3）。受傷後約2か月の時点で経過良好なため終診となった（図4）。
-----------------------------------	---



<折り畳んでしまうとき>



<開いて使用するとき>



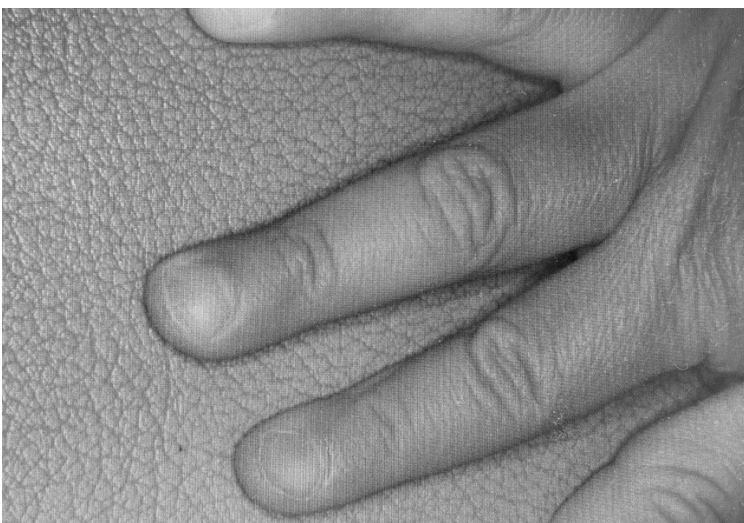
【図1】原因対象物。折り畳んでいる状態から開いて使用する際に指を挟み込んでしまう程度の穴（斜線で示した部分）が現れる。幼児でも容易に折り畳める仕組みとなっている。右中指の切断片は丸印部分に挟まっていた。



【図 2】初診時の受傷部位。右中指末端部は完全離断し、末節骨先端が露出していた。



【図 3】受傷後 18 日目の創部。感染兆候はなく肉芽形成も良好であった。



【図 4】受傷後約 2 か月の創部。肉芽形成良好であり、中心部の陥凹もほぼ消失していた。